

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担）研究報告書

各都道府県におけるがん対策の進捗評価と国との連携方法の検討  
群馬県と神奈川県的事例

研究分担者 片山佳代子 国立大学法人群馬大学情報学部 准教授

研究要旨：各都道府県において、地域のがんの罹患や死亡状況の特徴や優先度の高いはがん腫は異なる。国のがん対策の策定を参考にしつつも地域の実情を把握し、科学的根拠に基づくがん対策の策定や進捗評価を行う必要がある。本研究では、人口動態や特徴が異なる（神奈川県、群馬県）を事例にし、科学的根拠に基づくがん対策の立案と策定、評価方法について、検討した。これまでのがん対策は全体像から罹患の推計を行うなどの方法であった。日本のこれまでのがん医療対策は、どこでも均一な医療提供体制を整備する対策であった。しかし本稿の結果から示唆される対策の必要性は、都市部と非都市部のように異なる患者動態に合わせた医療体制に再編することである。今後の「がん」医療対策は、医療提供の内容（質）、尚且つ供給量（量）が、これらの地域では異なることを理解した上で将来の対策を立案しなければならない。

#### A. 研究目的

最終年度にあたる本年度は次期がん対策推進基本計画に向けた新たな指標及び評価方法の開発ならびに各自治体のがん対策と国との連携の在り方を検討することとした。

実態データを基にした数理モデルで代表的施策の重要性や効果を予測するために必要な事項の洗い出しと情報収集を行うことを目的とする。具体的には、神奈川県・群馬県をモデルに、がん登録データから数理モデルによる罹患率・死亡率の予測を活用して施策の優先度の検討や、都道府県のニーズの把握などから国との連携などの発展性についての提言を行うことを目指した。

#### B. 研究方法

①神奈川県：県のがん対策推進計画の進捗管理が客観的な指標やロジックモデルなどによる可視化ができていない。がん対策推進審議会でもロジックモデルの導入の提言を行い、担当者と施策の可視化の検討を進めた。また、神奈川県のがん対策上、優先順位の高い女性乳がんの将来の罹患推計についてがん登録データから検討した。

②群馬県：がん対策を進めていく前に、各市町村でどのような課題があるのか、科学的にがん対策を推進する上でニーズを調査し、それを次期がん対策へ生かしていくこととなった。調査はがん疾病対策課から、各市町村の担当者へメールベースで質問票を送付し、別紙に回答を記入しメール返信で集計した。期間は2月2日～27日に回答を締め切った。回収率は100%であった。

#### C. 研究結果

①神奈川県：これまでに2010年のがん登録データを使いNordpredのAge-Period-Cohort model (APCモデル)による乳がんの罹患将来推計を過去に行っており、本件では、その際に推計した2020年予測がある。

しかし、実際はすでに公表されている2018年の神奈川県女性乳がんの年齢調整罹患率82.2であり、APCモデルの2020年予測値の77.1以上をこの時点で超える罹患率を示した。

②群馬県：全35市町村からのニーズで一番多く上がったのは、「新規がん検診受診者を増やすにはどうしたらよいか」であった。

また、「職域や人間ドッグでがん検診を受診したもののデータを把握するシステムが必要」などの意見もあった。

#### D. 考察

日本のこれまでのがん医療対策は、どこでも均一な医療提供体制を整備する対策であった。しかし本稿の結果から示唆される対策の必要性は、都市部と非都市部のように異なる患者動態に合わせた医療体制に再編することである。今後の「がん」医療対策は、医療提供の内容（質）、尚且つ供給量（量）が、これらの地域では異なることを理解した上で将来の対策を立案しなければならない。

また、都道府県によって取り組む課題は異なることも考慮し、研究者

目線での成果物だけでなく、各自治体がどのようなデータを活用したいと考えているのか、地域のがん対策上、特に検診については市町村のニーズを聞きとり、必要な支援につなげたり次期がん対策の予算などにも考慮する必要がある。

#### E. 結論

都道府県ごとのがん対策を立案するにあたり、国の計画を参考にしつつ、各地域の実情やがん登録のデータを利活用しながら実態に沿ったがん対策の立案が必要である。特に人口動態が異なる地域や地方において、需要と共有のバランスを加味した医療資源の配分などの検討が必須である。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

・片山佳代子. がん患者の統計分析 「がん登録データを使った高齢化に伴う地域の罹患予測：APCモデルと単年モデル」. 公益財団法人 統計情報研究開発センター編集発行. 「エストレーラー」2022年5月.

・Suketomo Yako-Hiroko, Asae Oura, Katayama K, Saito K, Ohashi K, Ana M Navarro. The Effect of a Learning Partner Model-Based Program on Spreading Cancer Prevention Knowledge Using Community Health Volunteers in Japan. J Prim Care Community Health. 2022 Jan-Dec;13:2150 1319221110682.

・片野田耕太、伊藤秀美、伊藤ゆり、片山佳代子、他、諸外国でのがん登録データの地理情報の利用事例とわが国の全国がん登録の諸問題. 日本公衆衛生雑誌. 2023 Feb 10. doi: 10.11236/jph.22-093.

・石川大介、片山佳代子. 質的分析に基づいたテキストマイニングによるがん電話相談からの主訴の抽出と可視化. 医療情報学 42(2) 47-59 2022年.

### 2. 学会発表

・片山佳代子、佐藤美紀子、助友裕子、扇原淳. Development and Validation of a Peer Education Program for Cervical Cancer Prevention. 第32回日本疫学会学術総会 (web)2022年.

・片山佳代子. 西宮市保健センター 保健師行政対象子宮頸がん予防・HPVワクチン教育講演, 令和4年5月 (西宮市)

・片山佳代子. 神奈川県立深沢高等学校2年生: 招聘講義「子宮頸がんの予防」. 令和4年7月 (オンライン)

・片山佳代子. 令和4年度群馬県中堅養護教員資質向上研修及び健康教育研修講座 講義「がん教育の進め方」. 令和4年7月 (群馬県総合教育センター)

・片山佳代子. 招聘講演: 寒川町教員研修講演「がん教育の進め方」. 令和4年8月 (寒川町)

・片山佳代子. 第81回日本公衆衛生学会総会シンポジウム8. シンポジスト「これからの子宮頸がん対策～HPVワクチン接種勧奨再開～」, 令和4年10月 (甲府市)

・片山佳代子. 第60回日本癌治療学会学術集会シンポジウム1. シンポジスト「がん患者のためのチーム医療促進プロジェクト」, 令和4年10月 (神戸

市)

・片山佳代子. 第60回日本癌治療学会学術集会会長企画シンポジウム12 招聘講演「ビッグデータとデジタル化がもたらすがん医療の未来」令和4年10月 (神戸市).

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし